



標準化部会の新設

～国際標準化に向けてのバックアップ活動～

セキュリティ標準化：利点とその主役



標準化に協力することの利点

- ・リスクの低減
- ・ビジネス実施のコスト削減
- ・より良いビジネス機会を通じた投資へのリターン
- ・コンプライアンス環境の構築・維持を支える役割

– **国際標準化団体** (e.g., **ISO**, **ITU-T**, ETSI) は、フォーマルな手続きを保有している。

- ・手続きを進めるのに時間がかかる
- ・標準の合意については、合理的に推進

– **IETF** は少しフォーマルではない

- ・参加者の数が多いなどの理由で、作業の遅延も多少見られる

– **工業団体やコンソーシアム**は、特定の技術や応用にフォーカスする

- ・スコープは狭いが、標準作成までの時間が他と比較して早い
- ・標準のメンテナンスはできていないのでは？

⇒ JNSAの標準化部会のフォーカスポイントは、上記の

「特定の技術、応用を狙った最速で効果的な標準化策定」



国際標準化におけるホットトピック

- * **IdM(アイデンティティマネジメント)に関する審議**
(ITU-T SG17, ISO/IEC SC27)
 - ・特に「認証の保証レベル」などの審議
- * **ISMS関連の審議** (ISO/IEC SC27)
 - ・特定分野でのISMS規格化(セクター標準)
 - ・中小企業へのISMS(的)規格の適用 など
- * **アプリケーションセキュリティに関する審議**
(ISO/IEC SC27, ITU-T SG17)
 - ・セキュアプログラミングなどの技術と関係
- * **サイバーセキュリティに関する審議**
 - ・いかに、ガイドライン化を充実させるか などの審議

等など

標準化部会の構成

1. セキュリティにおけるアイデンティティ管理 WG

リーダー: 宮川晃一 (グローバルセキュリティエキスパート株式会社)

2. セキュアプログラミングWG

リーダー: 伏見諭 (株式会社情報数理研究所)

3. 情報セキュリティ対策マップ検討WG

リーダー: 奥原雅之 (富士通株式会社)

4. PKI相互運用技術WG

リーダー: 松本泰 (セコム株式会社)

5. 国際化活動バックアップWG

リーダー: 中尾 康二 (KDDI株式会社)

<プロジェクト>

6. Challenge PKI

リーダー: 松本泰 (セコム株式会社)

- 現状認識

- 一般的な課題

- 出席者個人の能力に依存
 - 問題意識、調査、調整、検討、起案、伝達
 - 「知る人ぞ知る」の状態
 - 国家戦略的アプローチがなし
 - 継承者の育成が出来ていない

- JNSAとしての課題

- 国際標準化に寄与できていない
 - 国内情報セキュリティ産業の育成を阻害？
 - 我が国情報セキュリティ産業は輸入依存型
 - 国際関係が出来ていない

- 活動内容

- 国際会議出席者のバックアップ

- ISO、ITU-T、IETFなどに出席されている方々の意見形成の手伝い

- 資料の精査、情報収集、検討など

- JNSAとして

- 国際情報の収集と分析
 - 国際戦略の検討
 - 国際担当者の育成
 - 資金の確保(国予算の獲得など)